

800人の長寿を祝う 平成25年度鮫川村敬老会

平成25年度鮫川村敬老会は9月14日、村農業者トレーニングセンターで開催しました。今年、満75歳以上の800名（男性309名、491名）を招待。村の最高齢は関根ミツさん（荻ノ沢）で満103歳です。

敬老会では、大楽村長が「幾多の困難を乗り越え、地域振興にご尽力いただいたことに感謝を申し上げます」とあいさつし、米寿、80歳到達者、金婚夫婦に記念品を贈呈。来賓祝辞のあと、子どもたちが高齢者に感謝する作文を朗読しました。

敬老会終了後には、恒例となっているアトラクションが行われ、ふるさと文化芸能クラブと村内7地区ごとに組織する高齢者支援団体が歌や踊りなどを披露し、参加者は楽しいひとときを過ごしました。



上/アトラクションを楽しむ招待者 左/長寿を祝い記念品が贈られました

館山公園ビオトープの整備進める 東京農大短期大学部「緑地工学実習」



ビオトープ内に橋を作る学生たち

東京農業大学短期大学部環境緑地学科の緑地工学実習は8月17日から23日までの7日間、村内で行われました。学生46人が参加し、館山公園内のビオトープにウッドデッキや階段を設置するなど、緑地工学を学びました。



優秀賞に輝いた藤田さん（左）と塩田さん（右）

練習の成果を発揮
少林寺で全国大会優秀賞を獲得

少林寺拳法福島鮫川道院拳友会の藤田大成さん・塩田和也さんの組が8月10日に日本武道館で開催された「全日本少年少女武道錬成大会」少年4級の部で優秀賞を獲得しました。「緊張しないで、技の正確さに気がつくことが良かった」と振り返りました。

むし歯のない子は3人 8月9日実施の3歳児健診

8月9日に村保健センターで実施した3歳児健診で、むし歯のなかったお子さんは、受診児4人中3人でした。



白坂 春飛くん

①赤坂西野字茅
②母・美里さん
③毎日、苦手な歯磨きを頑張ってできたね。これからはむし歯にならないようにしましょう。



黒田 采花ちゃん

①西山字水口
②父・実大、母・美保さん
③毎日、仕上げ磨きを嫌がらずにさせてくれました。



須藤菜々美ちゃん

①赤坂西野字名下
②父・勝美さん、母・美起さん
③「明日もおいしいものが食べられるように、きれいに磨こうね」と仕上げ磨きを頑張りました。

①住所 ②保護者 ③むし歯にならないために頑張ったこと

農山村の暮らしを体験 大妻女子大学グリーンツーリズム実習



トマト収穫を体験する学生たち

大妻女子大学のグリーンツーリズム実習は9月1日から3日までの3日間、村内で行われました。実習には学生22人が参加。朝日山登山や鮫川和紙を使ったうちわ作り、間伐作業などの林業体験、野菜収穫体験などを行い、農山村の暮らしに触れました。

日頃のご支援に感謝 鮫川たんぼの家感謝祭



一斉に風船を飛ばす参加者

鮫川たんぼの家感謝祭は8月31日、同施設で行われ、多くの来場者でにぎわいました。会場では、同施設で作っている商品を販売したほか、風船飛ばしや踊り、演奏などの催しが次々と繰り広げられ、来場者を楽しませました。

名門オーケストラが村民を魅了 京都大学交響楽団演奏会



大勢の観客でにぎわった演奏会

京都大学交響楽団演奏会は8月25日、村農業者トレーニングセンターで行われました。演奏会では、クラシックの名曲のほか、「鮫川村民の歌」や「こどもセンター園歌」などのなじみ深い曲も演奏され、来場者を魅了しました。

村政TOPICS

秋の全国交通安全運動期間に先立ち九月二十日、村交通対策協議会と交通安全協会鮫川支部主催の「交通安全鼓笛パレード」が行われました。

村内の交通関係団体のメンバーらが参加し、横断幕を先頭に青生野小と鮫川小児童鼓笛隊の演奏に合わせて広畑地内から鮫川小までを行進し、沿道の村民に交通安全を呼びかけました。

また、鼓笛パレードのあと、「交通安全テント村」が、交通安全センターが、宿ノ入交差点と中野町地内の国道289号沿いで行われ、通行するドライバーにチラシなどを配り、安全運転を呼びかけました。



鼓笛演奏をする児童たち

鼓笛パレードなどで 交通安全呼びかける

農業の振興と鮫川村のイメージアップを図る機会となりました。

村政TOPICS

都市住民に 村の「食」をアピール



郷土料理づくりを学ぶ参加者

鮫川村の「食」をアピールするための出張料理教室「まめで達人な料理教室」は、九月七日に東京都北区の赤羽文化センターで開催しました。

今回が初めての開催となる料理教室には、東京都北区の一般区民三十人が参加。村からは村食生活改善推進員「ひまわりの会」会員十人が講師として出向き、大豆やエゴマをはじめとした村内産の食材を使った郷土料理づくりを指導しました。

参加者たちは、初めて知るエゴマの調理方法や村内産の大豆製品などのおいしさに感心していた様子で、「食」を含めた鮫川村の魅力を堪能しました。

生産地（村）と消費者（都市住民）が相互理解を深め、